

世界臨床検査通信シリーズ-21

Choosing Wisely Campaignが広がる ～ASCPが提案した15の検体検査Don't～

国際臨床病理センター・自治医科大学名誉教授 河合 忠

本シリーズ-3で、2012年米国で始まったChoosing Wisely® Campaign (CWC)について紹介した。その活動に当初から活発に参画した American Society for Clinical Pathology (ASCP) が、検体検査（病理検査を含む）に関連し“Don't”（望ましくない）事例提案を15件〔2014年2月（1～5）、2015年2月（6～10）、2016年9月（11～15）〕を公表した。日本と医療事情が異なるが、CWCの日本語翻訳権が成立しているので、参考までに以下に要旨のみを紹介する。

1. 25-OH-ビタミンD欠乏症のスクリーニング検査*1
2. 低リスク HPV 検査*2
3. 低リスク外科手術前のルーチン検査（臨床的に必要な場合を除き）
4. 大腸がんスクリーニングのためのメチル化セプチン (SEPT9) 検査（他の診断検査が不能な場合を除き）
5. 出血時間検査（患者の診療方針決定のため）
6. 赤沈検査 (ESR)（診断未確定での炎症探索のため）
7. ビタミンK定量検査 (INR 異常*3 と VK 治療無効がない場合)
8. テストステロン治療（テストステロン検査値異常がない場合）
9. ミオグロビンまたは CK-MB（急性心筋梗塞診断のため）
10. 初回での多項目検査（非腫瘍性甲状腺疾患が疑われる場合）
11. ルーチン・センチネルリンパ節生検（平坦な早期メラノーマの場合）
12. 一連のルーチン脂質検査（粒子サイズ、NMR*4）（心血管疾患のスクリーニングのため）
13. アミラーゼ検査（急性膵炎が疑われる場合）
14. H pylori 抗体検査
15. FISH 検査*5、(MDS 関連病態のため)

このように毎年度の“5つのDon't”提案の公表に加えて、2015年度からは医療関係者（団体）を対象にChoosing Wisely Champion 顕彰事業を主導している。また、2017年8月から新しくChoosing Wisely app を立ち上げ、このアプリに510件の提案すべてを閲覧可能とし、さらにiPhone, iPad, Android などにも利用可能になる予定とのことである。

わが国では、日本医療の質・安全学会に「過剰医療検証とChoosing Wisely キャンペーン」ワーキンググループ（代表：小泉俊三博士）が2016年10月15日、Choosing Wisely Canada 代表のWendy Levinson 教授の特別講演を基調として「医療における『賢明な選択』Choosing Wisely Japan キックオフ・セミナー」を開催、同学会から独立してChoosing Wisely Japan の設立を宣言した。そして2017年6月1日には第151回日本医学会シンポジウム「医療における“賢明な選択 (Choosing Wisely)”を目指して」が開催された。当分の間、米国などのCWC提案を紹介する活動とのことであるが、Choosing Wisely Japan を銘打った以上、1日も早く日本の多くの専門医学会が参加して、日本の医療事情の改善に役立つ独自の提案を公表する組織活動へと発展することを期待する。

2017年10月、ASCPは新しく5件のDon't提案を公表し、累計20件となった。

*1 日本では2016年春から保険適用、*2 HPV: human papilloma virus、*3 INR: International Normalized Ratio（プロトロンビン時間検査）、*4 NMR: nuclear magnetic resonance、*5 FISH: Fluorescence in situ hybridization